重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	豊かですこやかな食生活を送っている			年度	平成27年度
				責任部長	市民健康部長
				主担当課長	健康づくり課長
施策名	食育を推進する	No.1		関係課	保育課、農業振興課、学校教育課、学校給食課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
食事の量と質を適正にとっている人の割合（%）		↗	63.5	62.6	65.0	63.6	64.0	64.3	69.2
			64.3	65.1	64.5	65.3			74.4
生活習慣病予備群の子どもの割合（%）	①幼児	↘	0.6	0.6	0.6	0.9	0.7	0.5	0.5
			0.5	0.5	0.5	0.6			0.4
	②小中学生		9.2	8.2	8.2	7.3	7.2	6.8	7.8
			6.8	6.9	6.7	6.6			6.4
自分の食生活に問題を感じ、改善した、あるいは改善したいと思う人の割合（%）		↗	―	―	―	―	―	―	―
			―	55.9	53.3	55.6			66.3

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

食品表示への信頼の低下や、国民の食への不安の高まりとともに、食品の安全・安心についての関心は高まっている。その反面、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、毎日の「食」の大切さを忘れがちな面があり、食生活の乱れが危惧される。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	**B** 停滞	食事の量と質を適正にとっている人の割合は大きな変化はみられない。生活習慣病予備群の子どもの割合については、小中学生は、ここ数年減少傾向にあり概ね改善傾向にある。幼児については、今年度微増している。自分の食生活に問題を感じ、改善した、あるいは改善したいと思う人の割合はわずかに増加している。食生活改善推進員の地域での食育普及活動は増加しているが、目標値達成のためには、引き続き各保健事業、母子事業を通し、乳幼児期からの生活習慣病予防の必要性について啓発を継続する必要がある。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）		長期成果（事業群③）
楽しく食事ができる	食に対する知識が身につき、安全・安心に対する関心を持っている		
学校給食事業	妊産婦保健指導事業	健康増進情報提供事業	
調理場施設設備の整備事業	健康教室（母子）事業	肥満予防研究推進委員会の設置	
食と緑の地域コミュニティ事業	乳幼児相談事業	栄養指導事業	
	乳幼児健康診査事業	学校給食啓発事業	
	食生活改善推進員支援事業	食育推進連絡会事業	
	地場野菜供給センター食育実践事業	参加型食育推進事業	
	有機堆肥利用促進補助事業		
	学校における食育推進事業		
	私立幼稚園食育啓発事業		
	保育園食育啓発事業		
	成人への生活習慣病予防事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	生活習慣病予備群の小中学生の割合は減っており、学校等の取り組みの成果が出ていると考えられる。自分の食生活に問題を感じ、改善した、あるいは改善したいと思う人の割合は横ばいなので、引き続き動向をみていく必要がある。今後も成人に向けて幅広い機会をとらえて食に関する啓発活動が必要と考えられる。
次年度の改善計画	広く食に関する啓発をするためには、地域の身近なところでおこなわれる活動が効果的である。食生活改善推進員の活動は年々活発になっているので、継続して活動を支援していく。幼児の食生活に関する啓発として保護者対象に行っている食育教室についいは、より多くの方の参加が得られるように内容の見直しをする。

＊＊

総合計画推進市民会議による現状評価（※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の評価書」から転記）

評価	**B** 停滞	食生活は個人差が大きいところではあるが、すべての指標が横ばいであり、目標値を達成していない。